

1983年

2月25日

《毎月10日、25日発行》

第33号 4頁 150円

定期購読料(1部22回)

手渡し3000円/開封3500円/密封4000円

赤旗

共産主義者同盟中央機関紙

(1980年2月28日第3種郵便物認可)

発行

赤

路

社

東京都大田区大森北1-13-11

電話(03)766-4729 東京7-86947

編集・発行人 北沢 晋

関西赤路社

大阪市福島区大開1-19-13

副島ビル 電話(06)462-7030

春期攻防勝利

神奈川連絡会議発足す

階級的労働運動構築へ方針確認

2·20 神奈川

昨年十一月、全国連絡会議の発足をうけ、神奈川の地で労組活動家集団連絡会議の結成の準備を進めてきた県下の闘う労働者の共同した力によって、ついに神奈川連絡会議が発足した。

神奈川連絡会議の開いた方向を鮮明に示した。

ができます。

ができます。</div

3.27三里塚現地へ起て

大地共有・自主耕作運動で

一期阻止・廃港の全国陣型を

現在、三里塚闘争は新たな飛躍をかちとろうとしている。反権力反戦実力闘争の大拠点たる三里塚は、新たに日本農民運動的一大拠点としても発展している。事業認定失効という実力闘争の成果基礎として、反対同盟は新たに大地共有運動を提起し、三里塚大地の解放と労農団結の新たな質の獲得へ出発した。この運動を断固支持し、担いぬき、飛躍を願うところ。

用地内農民とともに闘いの前進へ

昨年反対同盟は、政府一公団の「話合」攻撃、農振策一成用水による分断攻撃など多くの試練を「空港絶対反対・一切の話し合い拒否」農地死守・実力闘争「二期阻止・廃港」のもとに、闘う農業、自主耕作運動、自主基盤整備の闘いと反戦核闘争の決起で打ち返してきた。この力は今年の同盟の方針に生かされている。

まず第一に大地共有運動(一坪再共有運動)であり、第一に事業認定・効の闘いであり、第三には農振策一成用水攻撃を打ち返す自主耕作運動と自主基盤整備の闘いである。そして北原氏成田市議勝利の闘いである。

われわれは反対同盟の方針をうけ奮闘するとともに、三・二七現地集会の決起で応えきつていかなければならぬ。

いま三里塚闘争は、十七年の歴史をかけ、中曾根自民党政府と対決する労働者階級・人民との結合を強め、新しい展開のものと政府一公団の二期着工攻撃をはねかえす闘いに突入した。まさに大地共有運動は、この闘いの重要な場である。この運動は、三里塚闘争に新しい息吹をふきこむものであり、闘う農業建設と結びつける意識的な闘いのなかに、三里塚闘争の新しい可能性が生まれてくるのである。

三里塚闘争の十七年の歴史は、「空港反対」を掲げ、実力闘争を貫き、入民闘争の管轄高地を多く

の「話合」攻撃、農振策一成用水による分断攻撃など多くの試練を「空港絶対反対・一切の話し合い拒否」農地死守・実力闘争「二期阻止・廃港」のもとに、闘う農業、自主耕作運動、自主基盤整備の闘いと反戦核闘争の決起で打ち返してきた。この力は今年の同盟の方針に生かされている。

三里塚の大地を人民の手で

三里塚・芝山連合空港反対同盟 三里塚大地共有運動趣意書

りだし、労農学の戦闘的な团结をつくりだしてきたのである。また同時に帝国主義と農業農民問題としてあることも重視されなければならない。

三里塚農民の闘いは、歴代の自民党政府の農民無視・農業切り捨てとの闘いであり、農民の生活の支えである農地を土地收回法で強奪し、「空港建設」することに農地死守を掲げて闘つ

坪再共有運動は、従来の一坪をくり返すとともに、三・二七現地集会の決起で応えきつていかなければならぬ。

いま三里塚闘争は、十七年の歴史をかけ、中曾根自民党政府と対決する労働者階級・人民との結合を強め、新しい展開のものと政府一公団の二期着工攻撃をはねかえす闘いに突入した。まさに大地共有運動は、この闘いの重要な場である。この運動は、三里塚闘争に新しい息吹をふきこむものであり、闘う農業建設と結びつける意識的な闘いのなかに、三里塚闘争の新しい可能性が生まれてくるのである。

三里塚闘争の十七年の歴史は、「空港反対」を掲げ、実力闘争を



66年県庁前

農民の生活困難をつくりだして有運動の経験のような労働者のために、三里塚闘争の新しい団結の質と可能にさらされている全国の農民と労働者の結合をつくりだすことである。そしてさらには戦闘的労働者との戦闘的な結合をつくりだすことである。

他方労働者階級は、自らの解放のために資本主義的生産を廃絶・社会主義をめざす闘いの構成のなかに、農民の切実な要求を組織していくことが、しっかりと位置付けなければならないという相性がみだされ

たのである。そこでこの運動の第一の任務は、三里塚闘争の全国戦線の再構築を組織して、反対同盟の主張としてあることから多くの教訓を獲得してまた共存者は三里塚闘争の連帶の内実が、政府一公団の攻撃と対峙する内容を要求していることに応えることであ

る。そこでこの運動は、三里塚闘争の再構築をめざす闘いの構成のなかに、農民の切実な要求を組織していくことが、しっかりと位置付けなければならないという相性がみだされ

たのである。そこでこの運動の第一の任務は、三里塚闘争の全国戦線の再構築を組織して、反対同盟の主張としてあることから多くの教訓を獲得してまた共存者は三里塚闘争の連帶の内実が、政府一公団の攻撃と対峙する内容を要求していることに応えることであ

る。そこでこの運動は、三里塚闘争の再構築をめざす闘いの構成のなかに、農民の切実な要求を組織していくことが、しっかりと位置付けなければならないという相性がみだされ

たのである。そこでこの運動は、三里塚闘争の再構築をめざす闘いの構成のなかに、農民の切実な要求を組織していくことが、しっかりと位置付けなければならないという相性がみだされ

たのである。そこでこの運動は、三里塚闘争の再構築をめざす闘いの構成のなかに、農民の切実な要求を組織していくことが、しっかりと位置付けなければならないとい

うとすることができる。そしてまた共存者は三里塚闘争の連帶の内実が、政府一公団の攻撃と対峙する内容を要求していることに応えることであ

る。そこでこの運動は、三里塚闘争の再構築をめざす闘いの構成のなかに、農民の切実な要求を組織していくことが、しっかりと位置付けなければならないとい

うとすることができる。そしてまた共存者は三里塚闘争の連帶の内実が、政府一公団の攻撃と対峙する内容を要求していることに応えることであ

る。そこでこの運動は、三里塚闘争の再構築をめざす闘いの構成のなかに、農民の切実な要求を組織していくことが、しっかりと位置付けられないとい

うとすることができる。そしてまた共存者は三里塚闘争の連帶の内実が、政府一公団の

社共に代る 戰闘司令部を 單一の

たとえば、一九五〇年代末のブンドの結成過程が最初の好機であった。日共七回大会以後の党内闘争において当時の民族民主革命路線、議会主義を批判し、日帝打倒・社会主義革命路線を掲げた左翼反対派は、一方で後にブンドとなつた部分と他方で構改革系が存在していた。前者が思想・路線的にはマルクス・レーニン主義に忠実いたらんとし革命性をもつていたが、学生細胞を中心とし、後者は思想的・路線的に改良主義的傾向をもちつつ、しかし社会主義革

らぬその再編と、そのもとに含まれていた日共内プロレタリア左派のある部分の獲得と、なる波及を可能としたである。しかしその道は、六・一学連事件（学連グループによる代々木本部へのデモ）で一挙に閉鎖され、日共内分派闘争を労働者党員の中に波及させる余裕のないまま、学連グループと学生細胞を主体にまつすぐブンド結成へとすんだのである。この辺に港地区、中電細胞、長船細胞など六十年安保闘争の只中でブンドに結集したことは、この時期の

三、「八三年政治決戦」の只中で準備
会議結成急ぐ
わが同盟は「建党協議会準備
会議結成をすでに開かれてい
る中曾根自民党政権打倒行動
の環とする八三年政治決戦」の
重要な課題として開いたこと
を呼びかける。

いうまでもなく、戦争と革命
の八十年代の嵐の時代を前にし
てその重大な筋目ともなる「八
三年政治決戦」の只中に、この
よびかけが発せられた意義は
限りなく大きい。

迫りくる八十年代半ば以降
階級決戦に、労働者階級を領
者として全人民をひきいて、
国主義戦争か社会主義革命か
歴史的選択を組織しぬき、統
戰線戦術や革命的大衆行動を

昨12・14 東富士日米陸軍実動演習
塞力阻止に決起した労働者

三、 「八三年政治決戦」の只中で準備 会議結成急ぐ

一、共同事業へ発展した我々の提案
次《(1) (2) 経過》
・準備会議結成への“よびかけ”
(以上二月十日号)
二、社共に代る革命的労働者党創建
と「建党協議会」の歴史的位置
三、「八三年政治決戦」の只中で準備
会議結成急ぐう
(以上今号)

「建設協議会準備會議結成は好むとまさるにかかわらず、この内外で、これまでにない規模と質で、新左翼の総括一止揚をかけた、一方での急進主義・経済主義と他方での修正主義・社会民主主義との、壮絶な思想・路線闘争・党派闘争を理論と実践の全領域にわたって不可避とするである。」
わが同盟はこれを敢然とひき受け、全国の志ある共産主義者、安陪闘争、日韓連帯運動代る革命的労働者創建の

二、社共に代る革命的労働者党創建 と「建党協議会」の歴史的位置

「統一協議会」提案から「建党協議会準備への前進とわが同盟の態度」(下)

「共産主義者の建党協議会」 準備会議結成を闘い取ろう

統一協議会「提案から建党協議会準備への前進とわが同盟の態度(下)

わが同盟はブンデー・新左翼の小ブル急進主義を思想・政治路線・戦術組織にわたって総括し、日本革命の綱領・路線におけるかえ、この物質化を新左翼の自己主張・革命的労働者党創建の中に聞いていたらんとする。そして、他ならぬこのことがもはやわれわれをして、新左翼と旧来の諸潮流という枠にとどまることなく、この辺にこなってきた仲間に呼びかけ、反戦・反核・反安保・日韓連帯を確認して現地に結集した。

集会では三里塚反対同盟から「政府・公団の切り崩しと成田用水攻撃に闘う農業で対決し、中曽根自民党政権を追いつめる」との連帯アピールが述べられ、次に日本原農民から、「日本原の闘いは、日本人の闘いであります」と長崎合同演説を挙げ、自衛隊

讀者から

卷之三

してまた仲間に呼びかけ、反戦・反核・反安保・日韓連帯を確認して現地に集結した。

集会では三重塚反対同盟から「政府・公団の切り崩しと成田用水攻撃に闘う農業で対決し、中曾根自民党政府を追いつめる」との連帶アピールが述べられ、次に日本原農民から「日本原の闘いは、日本人民の闘いであり、日米ソ連交渉など、自動車家